

令和4年度 都城市立五十市小学校 学校関係者評価書

段階評価(4 期待以上 3 ほぼ期待通り 2 ふつう 1 改善を要する)

重点目標	評価項目	評価基準	評価結果	自己評価	改善及び対策	学校関係者評価	学校関係者評価コメント
確かな学力の育成	1 授業の工夫改善 ○授業力向上：県の示す「授業改善4+4つのチェックポイント」による授業づくりとICT活用 ○小中一貫教育に係る授業の展開 ○定着や習熟の時間の確保（日々の授業時間や単元テスト等、諸学力調査活用） ○学習訓練の徹底（発表や返事、ノート指導、忘れ物ゼロ）GIGAスクール構想に係る取組～ステップ3への準備 2 家庭との連携 ○「家庭学習の手引き」の活用と見届け ○読書のすすめと家読の推進 3 特別支援教育の充実 ○支援体制の確立と関係機関との連携強化 4 教職員の資質向上 ○職員研修の改善と充実 ○OJTとメンター方式の研修充実 （初期研修者と共に向上）1 生活習慣の定着 ○共通理解と共通実践の徹底 （「五小っ子のくらし」「さしすせそ清掃」） ○児童理解の充実と問題行動等の早期発見・早期対応【報告・連絡・相談】	授業改善 ・85%以上の児童が意欲的に落ち着いて学習に取り組むことができる。 ・100%の職員が、授業改善を意識して授業に取り組む。 ・全学級で効果的なタブレット端末の活用を図る。	○ 保護者自身は、全校的に落ち着いて学習に取り組むことができているが、職員は、もっと落ち着いた学習に期待している。 ○ 全職員で、児童のICT活用に取り組み、授業改善に取り組んでいる。 ○ 進んで読書に取り組んでいるという児童88%いる。貸出冊数も昨年度よりも増えている。児童の読書が推進されている。 ○ 児童も職員もおおむね家庭学習に進んで取り組んでいると考えているが、保護者はおもう一息と感じている方も多い。	2.8 職員 2.5 保護者2.8 児童3.2	○ これからも継続して、全職員で児童の指導にあたり、確実な見届けを行う。 ○ 職員一人一人が、日々の授業の中で、学習内容がわかるように、話し合いの仕方、授業でのタブレットの活用の仕方を工夫する。そして、指導法の研究していく。 また、外部の研修会に積極的に参加し、一人一人の資質向上に努めるようにする。 ○ 読み聞かせボランティアに学校に来てもらい、本に触れる機会をさらに増やし、読書の推進を図る。 ○ 児童の生活習慣の確立のため、保健だより等で早寝早起きや朝ごはんを食べることの大切さを授業の中で、食育として学習の中で取り上げていくようにする。 ○ 特別支援教育の視点から、児童一人一人を理解し、学習指導を工夫しながら進めるようにする。	3.5	○ 授業改善に努められていて、さらに児童の能力向上に取り組んでいただきたい。 ○ 児童のタブレットを活用した学習は浸透しつつあり、扱いても上手になってきており、授業参観でもその様子が見られた。 ○ 授業参観では、児童が静かに先生の話聞いている態度が良かった。また、ざわめきもなく集中力も高く、授業に真面目に取り組んでいる。 ○ 学校図書館に市の図書館との本の利用ができれば貸出冊数も増えるのではないかと。 ○ 宿題への取り組みの中で、読み解く力が苦手な児童が多いように感じられました。低学年での基礎（特に国語力）の確立が今後の学力の向上につながりますので、さらなるご指導をお願いします。 ○ 学校側の努力で読書の効果が出ていると感じました。 ○ 先生達にとっては、一番難しい教育だと思いますが、一人一人の個性を大事にしながら、伸ばしていただくください。 ○ ICTの導入では、先生方の負担がかなりあったことと思いますが、授業では、スムーズに進められており、今後も期待しております。
	家庭学習 ・進んで読書をしようとする児童の割合80%以上 ・70%の家庭で家読ができる。 ・100%の職員が家庭学習の手引きを活用・啓発する。	2.9 職員 2.6 保護者2.8 児童 3.3					
	特別支援教育 ・全職員が特別支援教育に理解を深め、実践と改善に努める。						
	教職員の資質向上 ・授業改善に努め、全職員で研修に努める。						
豊かな心	1 生活習慣の定着 ○共通理解と共通実践の徹底（「五小っ子のくらし」「さしすせそ清掃」） ○児童理解の充実と問題行動等の早期発見・早期対応【報告・連絡・相談】 2 生徒指導及び道徳教育の充実 ○積極的な生徒指導（生徒指導三機能を生かした学年・学級経営） ○道徳科の授業力向上（積極的な研修会への参加と伝達） 3 人権教育の推進～自信とやる気と誇りの育成 ○児童のよさの積極的な発信 ○地域行事への積極的な参加 4 教育環境の整備 ○無言清掃の徹底 ○計画的な設営と掲示	生活習慣 ・90%以上の児童が気持ちの良いあいさつができる。	○ 児童の95%が気持ちの良いあいさつをしているを思っている。しかし、保護者、職員、90%を下回っている。 ○ 児童も職員も学校や家庭でのきまりをほぼ守っていると考えている。保護者は、10%の方がそう感じていない。 ○ さしすせ掃除について、職員が掃除場所での現場指導を行い、掃除の仕方が身に付いている。	2.9 職員2.4 保護者2.7 児童3.2	○ あいさつについては、地域から褒められることも多くなったが、あいさつの大切さを学級活動や道徳学習で指導し、生活の中で実践を評価して気持ちの良いあいさつができることを目指す。 ○ きまりの大切さについて、道徳や学級活動を通して、継続して指導していく。また、道徳の授業を参観日で計画し、保護者に見てもらい、人権教育を啓発する。 ○ 児童一人一人の困り感をしっかり把握し、教育相談を行いながら、楽しく学校生活を過ごせるようにする。また、児童のサインを見逃さないようにして、困り感を解消していく。	3.3	○ 登校時の挨拶は個人差がみられ、特に朝は元気な声が少ないように思われました。 ○ 学年に応じた道徳授業を取り入れて、今後も子どもたちへの指導をお願いいたします。 ○ 止まってくださった車へ班長さんが率先して、一礼している様子は、下級生の良いお手本となり、今後も続けてほしいと思います。 ○ お互いを理解・尊重できるような児童となってほしい。人権教育へのさらなる取り組みを期待します。 ○ いつも学校がきれいに清掃されていて、気持ちやすがすがしくなります。 ○ 地域の方が公民館の活動の一環として、子どもたちの朝の登校時になぜ見守っているのかなど、ボランティアへの理解を図ってほしい。また、感謝する心も育ててほしい。
	生徒指導 道徳教育 ・きまりを守る児童の割合が80%以上である。 ・道徳の授業を年1回保護者に公開する。	3.1 職員 2.6 保護者2.8 児童 3.4					
	人権教育 ・90%以上の児童が学校が楽しいと感じる。	3.0 職員2.8 保護者3.1					
	教育環境 ・さしすせ掃除が100%定着する。	3.2 職員2.8 保護者2.8 児童3.5					
健康教育の充実と体力向上	1 体力向上プランに基づいた体力向上 ○自己の目標設定と体育科指導の充実 ○集団行動様式の指導の徹底 ○外遊びの励行（コロナ禍における工夫） 2 家庭と連携した効果的な取組の検討と実施 ○健康に関する個別指導の強化（早寝・早起き・朝ご飯と感染症対策の徹底） ○学校保健委員会の工夫と充実 3 食に関する指導の充実 ○給食指導における常時指導の徹底 ○弁当の日の確実な実施 4 安全指導と徹底 ○登下校指導の見守り ○安全意識の向上（防災教育の工夫と改善、交通事故防止、不審者対応等）	体力向上 ・進んで運動に取り組む、元気よく生活できる児童の割合が90%以上である。	○ 90%以上の児童が、運動場や戸外で元気よく運動できている。短い昼休みであるが、遊び方を工夫して遊んでいる。 ○ 93%の児童が早寝・早起き・朝ごはんに取り組むことができる。 職員としても、子どもたちへの呼びかけ等行ってきた。 ○ 新型コロナウイルスの感染防止のため、うがい、歯磨きは行っていないが、手洗いについては習慣化されている。 ○ 登校班への指導を月に1回行い、児童の安全な登下校ができるようにした。	3.0 職員2.9 保護者2.9 児童3.2	○ コロナ禍で、校時程を変更し、昼休みに遊び時間が減っている。学習や学校生活の中で交流できる場を設定し、体力向上プランをもとに、放送で子どもたちに運動の仕方を知らせ、学級懇談等で本校の課題や運動の例を知らせて、家庭での運動を推奨していく。学校でも計画的に運動をさせ、体力向上を図っていく。 ○ 各地区や見守り隊としてボランティアで登校の様子を見守っていただいているが、来年度は下校の指導にも重点をおき、職員による立ち番指導を計画していく。また、安全な登下校ができるように、各学級でも指導の徹底を行うようにする。 ○ 運動会の半日開催については、80%以上の方に賛同いただいているが、いろいろな視点からの意見をもとに検討・計画していくようにする。	3.3	○ 体力向上は、学習指導と同輪だと思います。元気な児童育成に努めてください。 ○ 運動会や走る会では、最後まで頑張る姿がみられ、成長が感じられました。 ○ 健康に関する個別指導が大変だと思いますが、今後も強化をお願いしたい。 ○ コロナ禍で、きちんとした手洗いうがいができるようになってきています。 ○ 食育の中で、好き嫌いをなくすことと同時に、残さないことが地球環境を守るうえで必要であることを教えてほしい。 ○ 朝の登校よりも下校時の指導をより徹底してください。 ○ 登校時の親の送りが相変わらず多いように思われる。特に雨の日は多く、学校前は交通渋滞も見られ、校門付近の安全面が心配です。家庭の理解を得る努力をし、早期改善を望みます。
	家庭との連携 ・90%以上の児童が早寝・早起き・朝ごはんに取り組むことができる。	3.0 職員2.6 保護者3.1 児童3.2					
	食育 ・90%以上の児童が手洗い・うがい・歯磨きの生活習慣が身に付いている。	3.0 職員2.4 保護者3.1 児童3.5					
	安全指導 ・全児童が、安全に登下校することができる。	2.8 職員2.5 保護者3.1					
小中一貫と家庭・地域と一体となった教育の推進	1 家庭・地域との連携強化 ○学校運営協議会との密連携 ○ふるさとを生かした学習活動の推進（地域人材と素材の積極的な活用） 2 小中一貫教育の推進 ○合同授業研究会の実施と充実 ○保幼小連携の推進 3 管理職による地域との連携深化 ○学校運営協議会・自治公民館長・見守り隊・民生委員等 4 日常的な情報発信 ○学校だより・HP定期更新・生徒指導及び保健だより・新聞への投稿：各報道機関・きめ細かなメール発信等 5 人材育成に関する行動計画 ○管理職による授業参観の実施とFB ○コンプライアンスの意識向上と働き方改革の推進 （管理職による声かけや校長室だより、時間管理、スクール・サポート・スタッフ等の効果的活用、会議縮減、ICT活用（C4t h） 定時退庁等）				○ 新型コロナウイルスの感染防止のため、計画的に短い時間で実施し、学校運営協議会を中身のある協議を実施する。事前に協議内容について提示し、たくさんの意見を集めていけるようにする。 ○ 保護者と向き合う時間を確保するために、家庭訪問を計画し、コミュニケーションを大切にしながら学校・保護者の理解を深めるようにする。 ○ 地域の人材を活用するために、学校支援ボランティアの名簿をもとに、計画的な活動ができるようにする。そして、地域と学校と保護者が連携して児童の成長を見守っていけるようにする。 ○ 地域の方、保護者に学校の様子を知っていただくために、ホームページや学校だよりを充実させ、学校の様子を知っていただくことで、学校の取り組みを理解してもらおうようにする。 ○ Sigfy（シグファイ）を使って、学級通信、学校だよりを発行し、保護者・地域に学校の様子を理解していただくようにする。	3.6	○ コロナ禍でいろいろな行事等の取り組みも大変ですが、工夫と知恵を出し合って連携・強化を図っていきましょう。 ○ 今年度もホームページを活用した情報発信は大変素晴らしい。コロナ禍の中でも、児童の様子がよくわかり、保護者も安心しているのではないかと思います。アクセス数の多さが、保護者の関心の高さを示していると思います。 ○ 行事予定の項目が記載されていないので、今後検討していただくと保護者及び地域での活用（安全パトロールの時間帯等）につながるのではないかと思います。 ○ 学校だより・ホームページを通して、学校の様子がよくわかるようになりました。今後も情報発信に努めてほしい。